

令和6年度・7年度

鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実際



薩摩川内市立入来中学校

目次

I はじめに

- 1 薩摩川内市の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 入来地域概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 学校概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

II 研究の概要

- 1 研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 研究の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 4 研究の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 5 全体計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 6 活動の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

III 研究の実際

- 1 令和6年度租税教室・財政教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 2 令和7年度租税教室・財政教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 3 各教科の授業における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - (1) 3年 公民的分野「私たちの生活と財政」・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - (2) 1・2・3年 社会科 冬休みの課題「いろはカルタをつくろう」・・・・ 12
 - (3) 1・2・3年 数学科 毎授業開始時の「音声計算トレーニング」・・・・ 14
 - (4) 1・2・3年 英語科 「Phonics 学習 アルファベットジングル」・・・・ 15
- 4 授業以外での取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
 - (1) 税に関する作文（令和6・7年度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
 - (2) 税に関する書道（令和6・7年度）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - (3) 学級通信等を活用した掲示物による啓発・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
 - (4) 全校朝会講話や行事の中でのチョコ税トークによる啓発・・・・ 20
- 5 税に関するアンケートの実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

IV 研究のまとめ

- 1 研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
- 2 今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

V 終わりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

I はじめに

1 薩摩川内市の概要

本市は薩摩半島の北西部に位置し、南は鹿児島市といちき串木野市、北は阿久根市に隣接する本土圏域と、上甕島、中甕島、下甕島の3島からなる甕島圏域とで構成される。総面積は682.92㎏で、県下全43市町村の中で最大である。

東シナ海に面した変化に富む海岸線、市街部を悠々と流れる九州第二の長流である一級河川「川内川」、ラムサール条約登録湿地である藺牟田池をはじめとする緑豊かな山々や湖、地形の変化の美しい甕島、各地の温泉など、多種多様な自然環境を有している。本市が有するこれらの多彩で美しい豊かな環境は、川内川流域県立自然公園、藺牟田池県立自然公園、甕島国定公園に指定され、人々に広く長く親しまれている。

また本市は川内市、樋脇町、入来町、東郷町、祁答院町、里村、上甕村、下甕村、鹿島村が合併して、2004年(平成16年)に誕生した。現在の人口は89,521人、世帯数は46,277世帯(令和7年7月1日現在)である。これから地域の発展と市民福祉の向上を図りながら、薩摩川内市の将来像「市民が創り 市民が育む 交流躍動都市」の実現をめざして、新たなまちづくりをすすめている。
(薩摩川内市HP参照)



市章

2 入来地域概要

本地域は県の北西部、かつての薩摩郡の南東部にあり、副田、清色、朝陽、大馬越、八重の5地区から成り立っている。総面積は72.38㎏であり、東西に9km、南北に13kmと、東西に短く、南北に細長い町で、東南部は愛宕山、八重山を中心に400mから500mの山岳地帯となっている。この山岳を源とする前川内川と後川内川が町の中央部で合流し、樋脇川となり川内川に注いでいる。これらの河川や谷間に沿って水田地帯が開け、山麓台地にかけて畑作地帯を形成している。主産業は農業で、米、茶、畜産のほかに野菜や果樹栽培が盛んで、中でもきんかんが特産物である。約700年の歴史をもつ入来温泉と重要伝統的建造物群保存地区である武家屋敷群をはじめ、多くの史跡を持つことから「温泉と歴史の町」として知られている。1889年(明治22年)の町村制施行による入来村、1948年(昭和23年)の町制施行による入来町を経て、2004年(平成16年)に前述の1市4町4村が合併して薩摩川内市となった。

人口は昭和22年国勢調査の12,204人をピークに減少の一途をたどり、昭和50年代には6,600人台に大きく減少するが、誘致企業による雇用拡大効果もあり、平成10年代まで6,000人台をキープし続けた。その後は、どこの地域にも共通した少子高齢化の流れで幼少年層の減少と高年齢層の増加が対照的な構成の中、漸減状態にあり、現在の人口は、3,934人(令和7年7月1日現在)である。

河川群がつくる低地部のほぼ中心に、本地域のシンボルである重要伝統的建造物群保存地区である入来麓や国史跡である清色城跡があり、貴重な観光資源となっている。清色城址の一角でもある入来小学校から臨む愛宕山は、「寝西郷」として地域の人々に親しまれている。また、近年では、独特の地形がパラグライダーに適しており、色とりどりのグライダーが空に舞うこともある。

3 学校概要

1947年(昭和22年)に入来村立入来中学校として開校し、今年で79年目を迎える。1949年(昭和24年)8月に、現在地(浦之名7635番地)に校舎竣工して現在地での入来中がスタートした。

生徒の出身校は入来小学校と副田小学校であるが、生徒・保護者の居住地は、閉校した八重小学校(昭和56年3月閉校)、大馬越小学校と朝陽小学校(平成30年3月閉校)の各校区を含む地域全域にあり、広範囲にわたる。



「高きを求めて一步前進 心を合わせ身をもって行う」の個性的な一文を校訓とし、「郷土を愛し、夢の実現に向けて自ら学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」を学校教育目標に掲げている。

生徒数は、令和7年度4月現在で1年生32人、2年生36人、3年生42人の計110人である。純朴で素直な生徒が多く、スローガン「IRIKING」のもと、日々の様々な活動に取り組んでいる。特に本市独自の教科「ふるさと・コミュニケーション科」では、校区内2小とともに小中一貫教育に基づく指導計画を作成し、主として郷土分野(歴史・文化・産業への理解を深める学習)、表現力分野(歌唱・川柳・舞台発表をとおして人間関係構築力を高める学習)、未来分野(マイプランニングシート活用の見通しと振り返りの力を高め進路を切り拓く進路学習)を推進している。

また、2020年度(令和2年度)からは市内全校でコミュニティ・スクールを導入しており、「地域とともにある学校」を目指し、学校と地域が協働した学校運営に取り組んでいる。

II 研究の概要

1 研究主題

継続的かつ全校体制で取り組む租税教育を通して、租税に対する興味・関心を高め、租税の意義や仕組みについての理解を深め、社会を支える一人としての自覚をもたせるとともに、社会に貢献しようとする意欲や態度を育成する。

2 主題設定の理由

少子高齢化の流れの中、日本の総人口に占める高齢者の割合の増加に伴い、生産年齢人口は減少している。こうした傾向は、将来の労働者世代の年金制度や医療保険、介護保険制度などの社会保障の負担増を生み、今後財源の確保がますます難しい状態になっていくことが明らかであり、本地域を含む人口減少が著しい地域においてより顕著である。また人工知能(AI)の登場によって、これまでにない新たな職業が生まれたり、これまでであった職業がなくなったりするなど、社会の仕組み自体が変化し、予測困難で先を見通せない時代に入ってきている。

薩摩川内市では、少子化対策・子育て支援、SDGs・カーボンニュートラル、産業人材確保・移住定住促進、DX等、地域のニーズや実情に応じた様々な財政活動が積極的に進められている。一方で、令和7年度の予算内訳を見ると、薩摩川内市の歳入のうち依存財源は62%、自主財源は38%と安定的な税収の確保が課題となっている。

このような状況の中、将来の薩摩川内市及び日本を担う生徒たちが租税の意義や役割を正しく理解し、国民の義務である納税について、租税教室や社会科の授業などを通して考える

機会をもつことは重要である。その際、租税教育を年数回の単発的な教育活動として実施することのないように留意したい。つまり、社会科以外の教科や行事との関連を図り、さらには、川内税務署をはじめとする関係機関、税理士などの地域人材と連携し、専門家から学ぶ機会を意図的・計画的に設けることにより、租税について理解を深め、社会を支える一人として自分の生まれ育った地域を誇りに思い、さらに地域を発展させるために行動できる態度と資質を育成していきたい。また、本市が推進している魅力ある学校づくりとも関連させながら、特に「みんなで何かをするのは楽しい」という共感的な人間関係の中で、生徒が主体的に取り組む教育活動となるように、租税教室をはじめとする租税に関する教育活動を全校生徒を対象として実施したり、また、全校生徒が参加する学校行事の際に、租税に関する講話を行ったりする。さらに、生徒同士での話し合い活動や理解度の高い生徒が周囲の生徒に教える活動（ミニティーチャー）を取り入れ、対話的な活動を促したり、タブレットを使って活動の振り返りや感想を送信することで、生徒同士が学習の成果を共有する機会を設定したりすることで、学び合いを通して、租税についての理解を深めていくことができると考

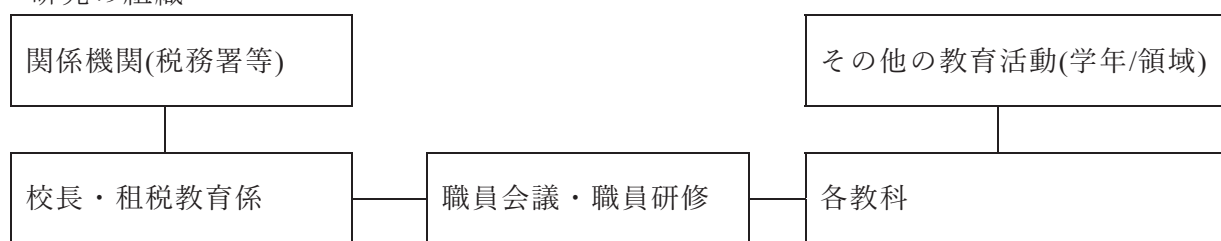
える。

上記の理由から、「継続的かつ全校体制で取り組む租税教育を通して、租税に対する興味・関心を高め、租税の意義や仕組みについての理解を深め、社会を支える一人としての自覚をもたせるとともに社会に貢献しようとする意欲や態度を育成する。」と研究主題を設定した。

3 研究の目標

- (1) 生徒の生活に関する題材を基に租税の特徴や仕組みを学ぶ学習を通して、租税に関する興味・関心を高める。
- (2) 租税の意義や役割、使途を理解させ、社会を支える一人としての自覚をもたせる。
- (3) 継続的に全校で取り組む租税教育を企画・実行し、魅力ある学校づくりと関連させながら、生徒が主体的に学び合う活動を設定し、社会貢献への意欲や態度を育成する。

4 研究の組織



5 全体計画

本校では租税教育を主権者教育の一環と捉え、次頁に示すように、主権者教育全体計画の中に、租税教育推進計画を位置付けた。

「機会を捉え、租税・財政や身近な地域の関係機関と連携し、主権者が『知り・考え・意見を持ち・論じ・決める』ことについて学ぶ」という視点に立ち、租税教育推進校として校内外の連携を深めながら推進していく取組を、主権者教育全体計画の下部「租税教育推進」の欄に示している。

主権者教育全体計画

薩摩川内市立入来中学校

日本国憲法 教育基本法 学校教育法 学習指導要領	本校教育目標 郷土を愛し、夢の実現に向けて自ら学び、 心豊かにたくましく生きる生徒を育成する。	本校の伝統、校風 保護者・教師の願い 地域社会の願い 生徒の実態
-----------------------------------	--	---

目指す学校像 (1) 学ぶ意欲にあふれた学校 (2) 明るいあいさつが響き合う学校 (3) 落ち着いた環境で、整美された学校 (4) 地域から信頼される学校	目指す生徒像 (1) 礼儀正しく、思いやりを持ち協力し合う生徒 (2) 自分を信じ、課題解決に向けて進んで学ぶ生徒 (3) 心身を鍛え、積極的に行動する生徒 (4) 気づき・考え・自ら進んで奉仕する生徒 (5) 「瞬発力」「柔軟性」「バランス」を意識して行動する生徒	目指す教職員像 (1) 教育のプロとして、授業で勝負する教師 (2) 人間性にあふれ、生徒を愛し育てる教師 (3) 個性と協調性を発揮し、職務を遂行する教師 (4) 心身の健康に努め、明るく、信頼される教師 (5) 研修に励み、専門性の確立に努める教師
---	---	--

主権者教育の目標 政治や選挙など、社会に関する理解を深めつつ、国や地域の課題を多面的・多角的に考え、自分なりの意見や解決策を形成していくとともに、他と連携・協働しながら、参画・行動する主権者としての資質を養う。

知識	能力	態度
<ul style="list-style-type: none"> ○ 憲法や選挙、政治参加についての理解 ○ 人、生命や自然、集団や社会についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いの立場や考えを言語を通して適切に表現し、正確に理解する力 ○ 根拠をもって主張し、他者を説得する論理的思考力 ○ 現実問題について考えるために、習得した知識・技能などを活用する力 ○ 現実社会の諸問題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力 ○ 現実社会の諸問題を見出して、協働的に追究し解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公共的な事柄に自ら参画しようとする態度 ○ 仲間と共に学び合い、他者を尊重しようとする態度 ○ よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための道徳的な判断力、心情、実践意欲や態度

各教科等との関連	
国語	「話すこと・聞くこと」 目的や場面に応じて社会生活から話題を決め、経験や知識を整理して考えをまとめたり、合意形成を目指して話し合ったりする。
社会	「人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」 第二次世界大戦後の我が国の民主化と再建の過程や、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることを理解する。 「民主政治と政治参加」 地方自治、国会を中心とする国の民主政治、法に基づく公正な裁判や、選挙の意義について理解する。 「私たちと現代社会」 社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考え、対立と合意、効率と公正について理解する。
技術	〈技術〉「情報の技術」著作権や発信情報への責任を知り、情報モラルや技術に関わる倫理観について考える。 〈家庭〉「消費生活・環境」身近な消費生活への関心から、消費者の基本的な権利と責任について理解する。
道徳	「社会参画、公共の精神」 社会参画の意義と社会連帯の自覚を高め、公共の精神を持ってよりよい社会の実現に努めようとする。
その他	〈学活〉「勤労/地域/共生・協働」主権者・勤労者の権利と義務を学び、集団や社会の中の自分を知る。 〈総合〉「未来/郷土/表現」身近な地域での活動等に触れ、まとめる中で将来のあるべき姿について考える。 〈生徒会〉生徒総会や各種会合を通して、意思決定プロセスに参加する経験を積み、世の中のしくみを知る。機会を捉え、租税・財政や身近な地域学習の関係機関と連携し、主権者が「知り・考え・意見を持ち・論じ・決める」ことについて学ぶ。
租税教育推進	〈国語科連携〉 毛筆での「税に関する作品」コンクールに向けた取組と参加(全校取組・文化祭展示) 「税に関する作文」コンクールに向けた取組と参加(全校取組・文化発表会) 〈社会科連携〉 平和講話・人権講話等での税金に関わるトーク及び校内租税教室の展開の検討と実施 〈各教科連携〉 各教科で行えるチョコ税モジュールの検討と実施 〈租推協連携〉 全校一斉で行う租税教室・財政教室の企画と実施・租推協主催の研修会への参加と還元 〈地域等連携〉 身近な税金・補助金投入事例に関する話についての情報提供や講話の企画と実施

6 活動の経過 ○研究主題等の立案は令和5年度末

○令和6年度

4月	○租税教育研究委嘱の確認，税に関するアンケート実施 ○税理士と租税教室の打合せ
5月	○研究計画立案，租税教育研究委嘱状交付，租税教室，人権教室等（全校）
6月	○租税教室の反省，全校朝会講話「ニートは3大義務違反？」
7月	○社会福祉協議会と税，税に関する作品（作文，書道）の周知
8月	○税に関する作品（作文，書道）の作成（夏課題）
9月	○税に関する作品（作文，書道）の出品 ○全校朝会講話「身近な橋・道路・川に税金投入」 ○数学科：音声計算トレーニングに消費税（8%と10%）の問いを導入 ○英語科：アルファベットジングル租税Version①
10月	○財政教室の打合せ，社会科：税に関する授業実践（3年公民）① ○英語科：アルファベットジングル租税Version②
11月	○財政教室（全校）
12月	○税に関する作品の表彰（全校で作文発表と内容理解） ○社会科：税に関する授業実践（3年公民）②，税に関するアンケート実施 ○社会科：税に関するいろはカルタ作り（1～3年の各授業）
1月	○家庭科：金融教育セミナー「保険商品と税」（2・3年）
2月	○研究のまとめ（1年目）・次年度の研究に向けて計画の修正
3月	○キャリア教育：職業講話（2年）講師の一人として税務署職員を招聘

○令和7年度

4月	○本年度の計画策定，租税教室の打合せ
5月	○研究主題・計画の再考，租税教室（全校）
6月	○租税教室の反省
7月	○税に関する作品（作文，書道）の周知と表現教室での取組
8月	○税に関する作品（作文，書道）の作成（夏課題）
9月	○税に関する作品（作文，書道）の出品 ○財政教室（全校） ○「租税教育研究冊子の作成」
10月	○「租税教育研究冊子の作成」 ○「租税教育研究会」での発表準備
11月	○「租税教育研究会」での発表（報告）
12月	○「税に関する作品（作文，書道）」の展示発表
1月	○家庭科：金融教育セミナーの中でのチョコ税トーク（2・3年）
2月	○研究委嘱成果のまとめ
3月	○2年目の反省と今後の方向性の確認

Ⅲ 研究の実際

1 令和6年度租税教室・財政教室

(1) 税理士による租税教室

- ア 日時：令和6年5月21日（火）6校時（15：10～16：00）
- イ 対象：全学年（1年生36人・2年生43人・3年生36人 計115人）
- ウ 内容：「税金を公正に集めるには？」

租税教育研究校としての初回行事として、元川内税務署の職員であった松永卓己税理士を講師として、全校生徒を対象に租税教育を実施し、税金の概要について学習した。

前半では、税理士・税務署の仕事の紹介や日本で支払われている税金や税制の紹介を動画視聴やクイズを交えながら行った。後半では、少子高齢化の世の中で今後の税金のあり方について、「税金を公平に集めるには？」をテーマに以下の4種類の集め方の実例を学んだ。①みんなから同じ金額を集める方法②特定の人が全額負担する方法③みんなから同じ率で集める方法④負担する能力に応じて集める方法。講師から学んだことを基に、生徒が各々タブレットを使ってさらにインターネットで深く調べ、調べたことを周りの友達に伝え合う時間を本時の最後に10間設けた。

租税教室終了後に、生徒各自が、タブレットのロイロノートを使って、校区内の小・中学校で実践している「わがとも」振り返り（わ：わかったことについて書こう／が：がんばったことについて書こう／と：ともだちの頑張りについて書こう／も：もっと知りたい・調べたいについて書こう）を行い、提出した。

《生徒の感想》

- ・ 色々な税の種類があることが分かって楽しかった。色々な考え方を考えることを頑張った。一年生が色々とネットで調べてすごい。将来大人になった時に、詳しくありたいので学生のうちから税についての考えを深めていきたい。（3年生女子）
- ・ 税金が何に使われているか改めて知った。しっかりと話を聞くことができた。友達が税金についてたくさん調べていた。どうやって税金を管理しているのか学びたい。（1年生女子）



<講話後に調べたことを発表する様子>

(2) 九州財務局鹿児島財務事務所による財政教室

- ア 日時：令和6年11月13日（水）5・6校時（14：10～16：00）
- イ 対象：全学年（1年生36人・2年生43人・3年生36人 計115人）
- ウ 内容：「日本の財政を考えよう」

租税の仕組みや特徴について、正しい知識を身に付けさせ、租税に対する興味・関心を高めるために、日本の財政についてのタブレットアプリでの学習を通して、「財政教育プログラム」を実施した。鹿児島財務事務所及び川内税務署から職員を講師として招き、前半は国家予算の概要の説明、後半に予算編成を考える学習を行った。

グループワーク「財務大臣になって予算を作ろう！」では、タブレットを活用して社会保障等にかかる費用の増減とその理由について話し合い、歳出と歳入のバランスを考えて予算編成を行った。

エ 活動の様子

活動に取り組む生徒の様子から、本プログラムが、「Ⅱ 研究の概要」の「2 主題設定の理由」の下線部に示した魅力ある学校づくりの実現につながる有効なものであることがうかがえた。特に、後半部の予算編成を考える学習では、4～5人のグループによる話し合い活動が活発に行われ、タブレットで予算編成シミュレーションソフトに数値を入力する段階では、生徒間の対話が特に深まっていた。さらに、各グループで作成したオリジナル予算を発表する段階では、予算編成の目的や理由を明確に説明しながら発表し、活動の感想まで述べることができた。学習成果を交流し合うことで、グループ間での学び合いが実現できた。

次頁に掲載するワークシートからは、ワークシートを効果的に活用しながら、グループで協力しながら粘り強く課題に取り組めたことがうかがえる。

今回の活動は、財務事務所と税務署の職員が主体となって指導したので、本校職員によるワークシートの記入見届けが不十分であった。次回はグループでの話し合い活動をよりスムーズに進行させるために、事前に本校職員でワークシートの内容や活用方法を十分に共通理解し、各グループへのサポートを充実させていきたい。

《生徒の感想》

- ・ 財政とは自分たちの身近にあるものと知った。日本の財政は健康で文化的な生活を送るための「共通の会費」という。財政があることで、私たちは学校に来ることができて授業を受けている。借金を無くすためにグループで考えることができた。財政について知ることは、今後の日本の未来を考えるのと同じだと感じた。（2年生女子）
- ・ 財政教室を受けて、日本の財政の状況がどうなっているのかが知れた。歳出の全てが税収だけでなく借金をしているとわかってよかった。グループ活動は楽しみながら、財政をみんなで考えることができてとてもよかった。（1年生男子）



<グループ活動の様子>



<グループ活動の成果を発表する様子>

グループワークシート

1 組 20 班

1. テーマを決めよう!

私たちは 持続可能 な社会にしたいと考えました。

2. 理想の予算を考えよう!

タブレットを操作しながら「増減」「理想の予算」「増減の理由」欄を記入しましょう。

この予算のポイントとなる項目(できれば歳入・歳出それぞれ3つ以内)に★をつけましょう。

全て
埋めなくても
OK!



★	項目	R6年度予算	増減	理想の予算	増減の理由
社会 保障 費	年金	13兆円	(10)%増加・減少・現状維持	14.3兆円	増えつつあるから
	医療	12兆円	()%増加・減少・現状維持	12兆円	
	介護	4兆円	(5)%増加・減少・現状維持	4.2兆円	
	子ども・子育て	3兆円	(20)%増加・減少・現状維持	3.6兆円	増えつつあるから
	生活保護など	6兆円	()%増加・減少・現状維持	6兆円	
	地方への交付金	18兆円	()%増加・減少・現状維持	18兆円	
歳 出	防衛	8兆円	()%増加・減少・現状維持	8兆円	
	公共事業	6兆円	()%増加・減少・現状維持	6兆円	
	教育	4兆円	(19)%増加・減少・現状維持	4.9兆円	増えつつあるから
	その他	12兆円	()%増加・減少・現状維持	12兆円	
	国債費(借金返済)	27兆円		27兆円	
	合計	113兆円	→	115.5兆円	

0.05
2.4
0.20

0.30

★	項目	R6年度予算	増減	理想の予算	増減の理由
歳 入	所得税	18兆円 現在	(50)%増加・減少・現状維持	27兆円	増えつつあるから
	消費税	24兆円	()%増加・減少・現状維持	25兆円	
	法人税	17兆円	(5)%増加・減少・現状維持	20.4兆円	
	その他の税収	11兆円	()%増加・減少・現状維持	11兆円	
	税以外の収入	8兆円		8兆円	
	国債(新たな借金)	35兆円		25.1兆円	
	合計	113兆円	→	115.5兆円	

17
0.2
3.4
14.3
11
26.3
4.2
36.5
3.6
36.1
6
46

115.5
90.9
25.1

113

3. 予算の総額を確認しよう!

令和6年度予算 113兆円 → 理想の予算 115.5兆円 となり、 42.5兆円 増加・減少・現状維持

4. 新たな借金はいくらになった?

令和6年度予算 35兆円 → 理想の予算 25.1兆円 となり、 9.9兆円 増加・減少・現状維持

<R6. 11. 13 実施の財政教室においてグループ活動で使用したワークシート>

(九州財務局鹿児島財務事務所作成)

2 令和7年度租税教室・財政教室

- (1) 日時：令和7年5月20日（火）6校時，9月18日（木）5・6校時
- (2) 対象：全学年（1年生31人・2年生36人・3年生42人 計109人）
- (3) 内容：「税務署の仕事と税金」と「公平な税制を考えてみよう」

令和7年度は，前年度とテーマを変えながら租税教室・財政教室を実施し，租税について多面的に学び，租税についての理解をさらに深めることをねらいとした。また，前年度と同様，生徒が主体的に取り組めるよう，講話とグループ活動を組み合わせて実施した。講話の後に，生徒は振り返りクイズをペアで協力して解いた。（次頁の「ペア活動で使用した振り返り問題」参照）

財政教室では講話の後，グループでテーマについて話し合い，タブレットを活用し，各項目の予算を増減させて，テーマに沿った理想の予算づくりの活動を行った。

前年度の反省を生かし，グループ活動では，ワークシートをより効果的に活用することができた。

《生徒の感想》

- ・ 今までは，税金を払いたくなかったし，好きじゃなかったけど，今日の話聞いてやはり必要だなと思った。これ以外にも知らなかったことを知れてよかった。また，他にどんな税があるか知りたい。（1年生女子）
- ・ 税金がないと公共サービスや消防を呼ぶのさえも自己負担になることが分かった。国の予算には税以外にも，公債などもあることを知ることができた。今後は他の国の税金について調べてみたい。（2年生男子）
- ・ 『アナザーワールド』を視聴して税金がないと本当に起こりうるできごとなんだなと思った。なぜ，ゴルフ場に税金がかかるのかが分かった。また，国債について，具体的にどこの国からお金を借りているのか知りたい。（3年生女子）



<タブレットを活用した租税教室講話>



<ペア活動による振り返り問題への取組>

租税教室の振り返り問題 ()年1組 氏名 ()

問1 鹿児島県の令和6年度当初予算に近いのはどれになりますか。番号を○で囲みましょう。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 1,015 億円 | 2. 8,405 億円 |
| 3. 1兆2,649 億円 | 4. 2兆9,608 億円 |

問2 国の令和6年度当初予算のうち、支払金額が一番大きいのは次のうちどれになりますか。番号を○で囲みましょう。

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 社会保障関係費（健康や生活を守る等） | 2. 国債費（国の借金の返済） |
| 3. 公共事業関係費（道路・建物整備等） | 4. 教育関係費（教育や科学技術） |

問3 国の令和6年度当初予算のうち公債（国債）金収入に近いのはどれになりますか。

※公債とは国や地方自治体が資金を借り入れるときに発行するもの。番号を○で囲みましょう。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 649 億円 | 2. 2,361 億円 |
| 3. 23兆8,230 億円 | 4. 35兆4,490 億円 |

問4 利用時に消費税以外の税金がかかるものはどれになりますか。番号を○で囲みましょう。

- | | |
|----------|-----------|
| 1. ゴルフ場 | 2. 野球場 |
| 3. サッカー場 | 4. テニスコート |

問5 今回の税金の授業を受けた感想を下のかつこ内に書いてください。

- | |
|---|
| <input type="radio"/> 『アナザーワールド』視聴から |
| <input type="radio"/> 税務署 森さんの講話から |
| <input type="radio"/> わがと「も」振り返り 「も」っと調べてみたい・知りたいと思ったこと |

<ペア活動で使用した振り返り問題>

3 各教科の授業における取組

(1) 3年 公民的分野「私たちの生活と財政」【東京書籍】

ア 本時の目標

- (ア) 消費税の増税の可否について、これまでに租税について学習した内容や資料から読み取った情報、友達の意見を基に、分析的に検討し、根拠をもって判断することができる。
- (イ) 消費税増税について、主体的に調べたり、話し合いをしたりすることを通して、自分の考えをまとめようとするができる。

イ 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入	5 1 前時の復習をする。	○トライシートを使って前時の学習内容を確認させる。
	5 2 「あなたは消費税を 10%より高くすることをどう思うか」についてアンケートに答える。	○ロイロノートのアンケート機能を使って自分の考えを選択・送信させる。
	3 3 学習課題について探究するために、どんな資料が役立つかについて意見交流する。	○選択理由のメモを指示する。 ○【自己決定の場合】 ★自発的に言葉を発しているかの見取り (主体的に学習に取り組む態度) ○個人→ペアによる対話 【共感的な人間関係】
展開	6 4 「あなたにマッチする政党」の経済財政項目チェックを行う。	○インターネットで、朝日デジタルの政党マッチ資料を活用させる。
	6 5 2のアンケート結果を見て、概要を知る。(約90%が反対)選択理由をペアや近くの人と意見交流する。	○既習事項や難解語を解説する。 ○どんな理由が話題に上ったかを机間指導で把握し、発表させる。発表を賞賛する。【自己存在感】
	12 6 消費税資料(下記)から、問いについて考える。 ・『わたしたちの生活と税』P10 ・教科書「新しい社会 公民」P169 ・資料集「ビジュアル公民」P125 ・ネット記事「堀江貴文氏の消費税 10%独自見解に意見様々」 発問①「消費税は何であるの?」	○消費税資料グラフから分かること(日本の順位や消費税率の実際) ○他資料の記述からの読み取り(消費税の成り立ちや目的)(消費税の税率の変遷) ○個人→ペアによる対話 【共感的な人間関係】
	6 7 再度、2のアンケートに答える。	○ペアトークから近くの友達同士の小グループへ 【安心・安全な風土の醸成】
終末	7 8 アンケート結果の変容を確認し、自分の最終的な考えと理由をまとめる。(約30%が賛成に転じる) 9 本時の振り返り等を行う。	○数名の生徒に最終的にまとめた内容を発表させる。 【自己存在感】 ★ノートに書かれた内容やメモの見取り(思考・判断・表現) ○「わがとも」で振り返りをさせる。

ウ 授業前後での生徒の変容と記述内容

【消費税率を 10%より高くすることをどう思うか?】

	授業前後実数	変容
「どちらとも言えない」	12	⇒ 14 ↑
「反対」	9	⇒ 3 ↓
「どちらかと言えば反対」	7	⇒ 2 ↓
「どちらかと言えば賛成」	3	⇒ 8 ↑
「賛成」	0	⇒ 1 ↑
合計	31	27

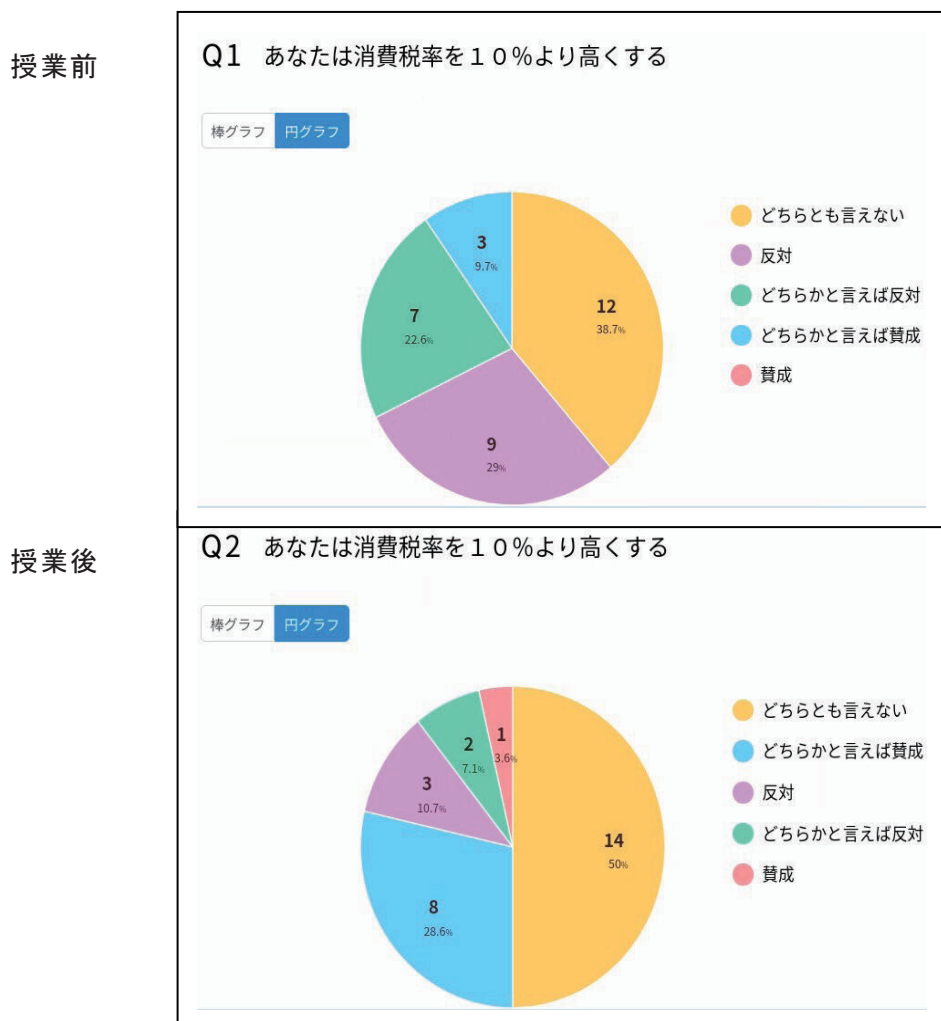


< 3年公民の授業の様子 >

授業後、アンケートに回答しなかった・できなかった生徒4人に、その理由を尋ねたところ、次のような回答が返ってきた。

- 税金や政治について、もっと勉強しないと答えられないと思った。
- 参考にする資料が多すぎて、わからない。
- これまでの消費税のことを何も知らないから。
- 消費税が何に使われているのかがよく分からないから。各々の意見だった。

中学生にとって最も身近な消費税の税率アップについての考えを、大きく揺さぶることはできた。しかしながら、本時の目標である自分の考えに根拠をつけて説明するというレベルに到達するには、さらに幅広く情報を集めたり、意見交換の場を積み重ねたりしていく必要がある。



<授業前、授業後のアンケート比較>

(2) 1・2・3年 社会科 冬休み課題「いろはカルタをつくろう」

全学年の社会科の冬休み課題として、2学期までの社会科の授業を振り返り、生徒自身が興味のある題材を選び、簡潔な文章で内容を整理し、いろはカルタを作成した。

その中で、租税教育で学んだこと、税金に関連して考えたことを一つ交えて、カルタを作成するようにした。

生徒たちは、主に教科書や資料集を参考に、ユニークなカルタを作成していた。中には、読み札・取り札の役割の違いを考えずに、すべて読み札的に作成する生徒もいたが、語呂の良い短句形を意識した素晴らしい作品もあり、実際のかるた遊びを通して、作品の良さを取り上げて、価値付けを行うようにした。

公民いろはカルタをつくろう

① 物価が取れず、均等価格	② 直接金融 借りるごと	③ 別荘 働きをする 中央銀行
④ 業の生産性活動 土地・設備・労働力	⑤ 物の重 商品は財	⑥ 形の名 高品質サービス
⑦ 税に細心 税金 国税	⑧ 地方自治体 地方税	⑨ 納税者と租税者 同じ直接税

地理いろはカルタをつくろう

① 積丹重なり 島になるかも? さんご礁	② ぐいぐい下り 求めて移動 遊敬犬	③ 熱帯地域に開かれた 大規模農園 プランテーション
④ 他人への 愛を大事に キリスト教	⑤ くり返り 利用していく 再生可能エネルギー	⑥ 日本のため 税金はらい 守っていく
⑦ 年二回 同じ作物作る 二期作	⑧ 高気圧から 高緯度へ 西からの風 偏西風	⑨ 土地の乾燥 広がっていく 不毛な荒れ地に 砂漠化

地理いろはカルタをつくろう

① 教の使え方を 教えてくれた ぞせい教室	② フリカカの 北部にあるよ サハラ砂漠	③ 米の企業が 進出したよ T
④ 南アジアの ASEAN ASEAN	⑤ 沿岸の浅い海 にはサメが いる	⑥ 空気が加温してよ ASEAN

地理いろはカルタをつくろう

	① の国の 基準の時刻 標準時	② の買おうと いつも払うよ 消費税
	③ 乾燥帯 貴重な水源 オアシスだ	④ EUの 共通通貨は ユーロだよ
	⑤ アフリカの 支援に取組む NGO	⑥ 大気汚染 広い範囲で 酸性雨

<租税に関するワード入りのワークシート>

(3) 1・2・3年 数学科 毎授業開始時の「音声計算トレーニング」

本校数学科では、授業の進程に合わせて内容の違う計算式の一覧表を見ながら、答えを声に出す志水式音声計算トレーニングを採用している。数学の授業の最初に毎回、計算する側とその答えを確認する側と、ペアで役割を交替しながら、各1分間ずつ読み上げ暗算をしている。

ア 音声計算トレーニングの目標

- (ア) 1分ずつ集中して行うことで、授業への意欲や計算力・暗算力を高める。
- (イ) 授業始まりにペアで行うことで、その後の学習における対話活動のウォーミングアップを行う。また、ペア活動の中でお互いを尊重し、できるようになったことを称賛し合い、自己肯定感を高める機会とする。
- (ウ) 授業始まりに毎回行うので、数学の1コマの授業の流れを見通すことができる。同時に、単元の学習の基礎となる内容を盛り込んだ計算を反復練習し、積み重ねる中で、数学的な見方・考え方を基に課題を追究し、考え、表現することができるようになる。

イ 租税教育に関連した計算を追加した音声計算トレーニングの様子

租税教室や財政教室での学びと数学の学習を関連付けることをねらいとして、音声計算トレーニングの題材として、租税教育に関連した計算を追加するようにした。

生徒たちは、計算問題を解き終わった後に、追加の租税に関する問いを解く。租税に関する問題は、実生活に身近で、必要性を感じ得る問題であることから、生徒たちは興味をもって取り組んでいる。ある生徒は「家の購入だと、こんなに差が出るんだ」と驚きをもって、租税の仕組みについて認識を深めている様子であった。

今後は、計算過程まで話題にして解き方の違いを意見交換する時間を設定したい。

中1-15 方程式 方程式を解く 次の方程式を解く。

$x - 8 = 5$	$2x = -10$	$7 + x = 30$
$-7x = -35$	$3x = 5$	$4x - 7 = 5$
$x + 6 = 2$	$4x = 9 + x$	$x + \frac{1}{3} = 1$
$7x + 9 = 6x + 4$	$7x = -\frac{1}{7}$	$-\frac{x}{3} = -9$

消費税が10%のとき、品物の値段が560円なら、支払う金額は何円ですか。

太郎くんのお父さんは、3000万円の家を買うことにしました。消費税が8%と10%では、支払う金額に何円の差が出ますか。



<租税に関するワード入りの音声計算シート>

<音声計算トレーニングの様子>

(4) 1・2・3年 英語科 「Phonics 学習 アルファベットジングル」

本校英語科では、以下のことをねらいとして、Phonics 学習を取り入れている。

ア Phonics 学習の目標

- (ア) アルファベットの音読みの繰り返し学習を中心にした Phonics 学習により、英単語を読むことのできずきを減らし、英語力のボトムアップを図る。
- (イ) ジングル等を活用したアルファベットの音読みやアルファベットと文字をつなげる活動の中で、ペアやグループでの対話やミニティーチャーによる教え合いを促し、教師の称賛を通した価値付けによって、活動を強化する。
- (ウ) Phonics 学習の継続で生徒たちを自分の力で「聞く・話す・読む・書く」ができる「自立した学習者」に育てていく。

イ Phonics 学習への tax word の導入

生徒たちは、アルファベットの音読みと、basic word の読み書きを Phonics 学習の基礎として習得しているが、既習事項を応用して「推測しながら聞く・話す・読む・書く」ことの経験値は高くない。租税教育における学びと英語の学習を関連付け、租税への関心を高めるために、段階を踏んで tax word の導入を行った。また、普段耳慣れない言葉であり、より難解な tax word に敢えて挑戦させることで、「推測しながら読む力」を高め、英語学習への向上心を刺激することをねらった。

しかし、比較的英語力の高い生徒も、tax word の発音に自信をもてず、tax word を読むことができた生徒にミニティーチャーとして他の生徒に教えるよう促したが、積極的に動くことができなかった。また、tax word の意味調べにおいても同様であった。

今後はジングルの一覧表を用いて継続して行い習熟度を高めつつ、租税に関する学習とタイミングを合わせて効果的に実施していきたい。

アルファベットジングル 税 Version for 学習強化

0	alphabet	名前読み	音読み	check	basic word	Words	tax word
1	a	えい	あ		ant		accommodation
2	b	びー	ば 爆裂		banana		business
3	c	しい	くうっ 短く		cat (consumption)		corporate
4	d	てい	だっ		dog		departure
5	e	いー	え		egg		environment
6	f	えふ	huふ、上歯下唇隙		fish		forest environment
7	g	じー	・が(は)		gum		gift
8	h	えいっち	・(は)ふっ痰喉		hat		hot spring
9	i	あい	い 横に		ink		inheritance
10	j	じえい	じえ		jam		jet fuel
11	k	けい	くうっ 短く		king		kiddie
12	l	える	うら		lemon		liquor
13	m	えむ	うま		milk		municipal
14	n	えぬ	うな		net		national
15	o	おう	お		octopus	official development assistance (ODA)	
16	p	ぴー	ぶっ 唾吐き		pen		petroleum and coal
17	q	きゅう	くうっ 短く		queen		tax by quantity
18	r	あーる	・るら		rain		reconstruction
19	s	えす	すっ 歯の隙間		sun		stamp
20	t	てい	どうっ 舌上歯裏		ten		tonnage
21	u	ゆー	あ		umbrella		umbrella term 「税」
22	v	ぶい	ばわ 上歯下唇		violin	value-added tax(VAT) = 3のかっこ	
23	w	だぶりゅー	うわ 窄め		watch		water utility
24	x	えっくす	くす 歯の隙間		box		tax
25	y	わい	iやっ		yo-yo		yen
26	z	ぜっ	ずい		zebra		tax free zone

<tax word を導入した Phonics 学習のワークシート>

4 授業以外での取組

(1) 税に関する作文（令和6・7年度）

令和6年度は国語科と連携した租税教育推進係が、応募を希望する1～3年生をサポートして、主に夏休み期間中に作文に取り組んだ。（応募数:5）

令和7年度は表現教室として、全校で作文に取り組んだ。

※ 以下の作品は、令和6年度中学生の「税の作文」で、川薩地区納税貯蓄組合連合会優秀賞を獲得した有村映真さん（3年生）執筆の『謎の正体』

謎の正体（中学三年女子の作品）

「あれ、こんなに買ったっけ。」私は、よく行く近くのコンビニで好きなお菓子や中学校で使う文房具を買う際に、想定していた金額より、レジで高いなあと思う感覚が時々あった。そう、この違和感の正体は消費税であった。ちよつと高いものを買ったり、購入した品数が多くなった時、消費税の存在に気づかされる。税って小さいようで大きい。

家族や友達と行く、私の好きなカフェにはドリンクなどを買う時に、「お持ち帰りですか。店内でお過ごしですか。」と必ず聞かれる。私にはこの質問が、謎だった。ある日、母に聞いてみた。すると、母は持ち帰りの時は8パーセントで、店内で飲食するときは10パーセントになり、持ち帰りの方がお得だという事を教えてくれた。

私は10パーセントと8パーセントの差がよく分からなかった。そこで計算してみた。例えば、七百五十円のスイーツを8パーセントで購入すると、八百十円になった。これが10パーセントだと八百二十五円かかる。私は十五円しか変わらないのなら、おしゃれな店内で友達などとおしゃべりしたりして、場の雰囲気を楽しみたいと考える。このシステムは二〇一九年の十月から導入されていて、食べる物は同じでも外食には2パーセント高い税がかかっているということだ。私が外食でお店の雰囲気を楽しむ度に少し多くの税をとられ続けている。税って少しずつのようで積ると大きい。

ところでイートインだったり、テイクアウトだったり、どちらにしてもかかっている消費税を含め、私たちが払っている税金は何のために使われているのだろうか。私は調べているうちに、自分の将来の夢にも関係していることが分かった。私の将来の夢は保育士になることだ。実は、その保育士の給料の一部は税金からの補助金によって支えられている。特に公立保育園では、保育士の給料は地方自治体からの補助をうけて、保育士の給料の一部をカバーしている。もし、税がなかったら私の現在の夢である保育士は安い給料で働かざるを得ず、色々な意味で余裕のない状態に追い込まれ、子ども達に笑顔で接することができない職業になってしまったら私自身、保育士に魅力を感じていなかっただかもしれない。もっと言うなら、税金からの補助のおかげで、保育士の笑顔がよみがえり、未来を担う子ども達も明るい笑顔につながっているんだと思う。

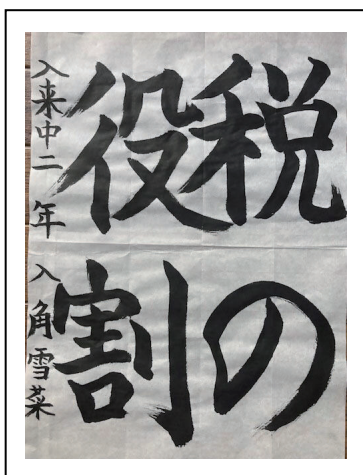
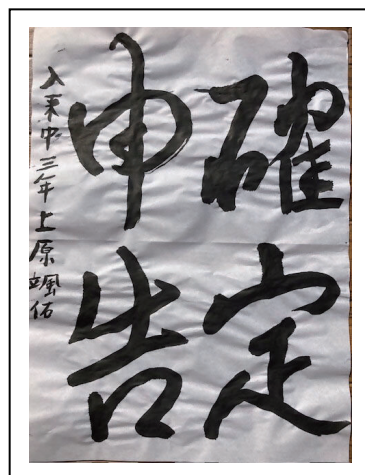
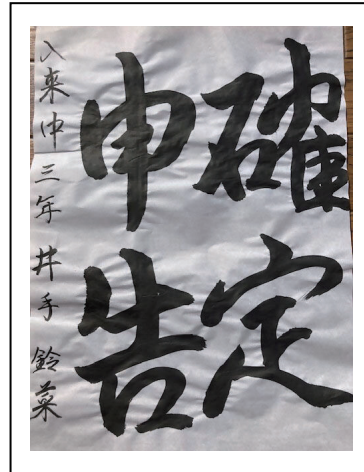
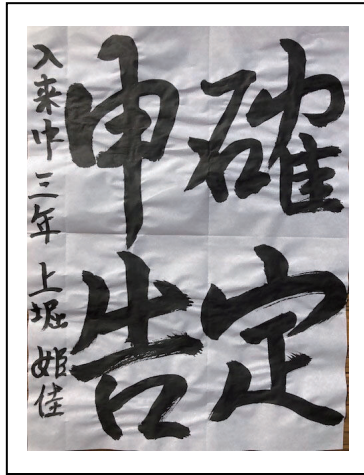
私は消費税など、様々な種類の税を国や地方自治体が正確に集めているけれども、その集め方よりも税金が具体的に何に使われているかということのほうが、重要だと思う。例えば、私の目指す保育士への補助のように、未来の日本を支える子ども達のために、より大きく税金で使われれば豊かな国づくりができるはずと強く願う。

(2) 税に関する書道（令和6・7年度）

令和6年度：国語科と連携した租税教育推進係が応募を希望する生徒をサポートし、夏休みの自由課題として取り組んだ。（応募数:4）

令和7年度：2・3年生が国語の書写の授業の課題の一つとして取り組んだ。

（応募数:69）



(3) 学級通信等を活用した掲示物による啓発

各学級の学級通信に租税教室や財政教室の内容を掲載した。また、全校朝会で、税に関する作文を受賞者が発表し、その様子も学級通信に掲載した。学校だよりには、1年間の租税教育に関する行事や取組を整理して掲載した。

<h1>CHALLENGE</h1>	入来中学校 3年1組 学級通信 第 29 号 令和6年12月11日(水)
<h2>☆税についての作文☆</h2> <p>「謎の正体」というタイトルで、消費税など身の回りの税について、映真さん自身の体験も交えながら作文を発表してくれました。</p> <p>将来の目標ともつながった見事な作文で、見事「川薩地区納税貯蓄組合連合会優秀賞」を受賞しました。おめでとうございます。</p> <p>何事にも興味をもって、調べてみると面白い発見があるものですね。皆さんも税について、ぜひ調べてみてください。</p> <h2>☆インフルエンザ注意報発令中です！☆</h2> <p>インフルエンザとは、インフルエンザウイルスに感染することで起こる病気です。通常の風邪と比較して、高熱や全身倦怠感、関節痛等の症状が急速に現れるのが特徴です。季節性のインフルエンザは流行性があり、短期間に多くの人に感染が広がります。</p> <p>インフルエンザにかからないようにするには…？</p> <ol style="list-style-type: none">①流行前のワクチン接種 感染後に発症する（症状が出る）可能性を低減させる効果と、発症した場合の重症化防止に有効。②外出後の手洗い等 流水と石鹸による手洗いは手指や身体についたウイルスを物理的に除去するために有効。③適度な湿度の保持 空気が乾燥すると気道粘膜の防御機能が低下。最適湿度は50～60%。④十分な休養とバランスのとれた栄養摂取 体の抵抗力（免疫力）向上のために必要。⑤人混みや繁華街への外出を控える 睡眠不足のときは要注意。やむを得ない場合は不織布マスクを着用。 <p>※ちなみに、「インフルエンザ菌」という名前の細菌もありますが、インフルエンザの病原菌ではありません。</p> <h2>☆やりとり帳から☆</h2> <ul style="list-style-type: none">・体育は跳び箱でした。跳ぶ前はすごく怖いけど、1回跳べると怖くないです。あまり。男子がすごく高い跳び箱を跳んでいて、ビックリしました！・模試でした。疲れましたが、あと2回あるので頑張ります。・今日はすごく寒かったです。北海道の人たちからしたら、暖かいのか気になります。・給食でプリンが出ました。半分くらい凍っていたので冷たかったです。・体調が戻ってきて、学校に行けました。まだ咳、鼻水は少しきついですけど、楽しかったです。・昼休み、オスカーとサッカーをしました。楽しかったです。 <p>私立入試の願書を印刷して持参してください。高校によって願書が不要な場合もあります。各自要項をよく読んでください。1人1人が自覚と責任をもって！</p>	 

<「税に関する作文」入賞作品を紹介した学級通信>

学校だより 令和6年12月24日(火)

一歩前進



薩摩川内市立入来中学校

生徒数 115名
TEL 44-2070
FAX 44-2232

入来中は租税教育研究校です！

校長 石畑 浩一

本校は、今年(R6)～来年(R7)まで租税教育研究校となっております。改めて今年の取り組みについて、振り返ってみたいと思います。

① 5/21 租税教室 by 松永税理士 ② 7/3 ボランティア事前学習 by 社協 ③ 夏休み 税作品に挑戦(書道)



④ 9/3 ～音声計算機に消費税計算導入 ⑤フォニクス学習に税に関する英単語 ⑥ 11/13 財政教室 by 九州財務局



R6(2024)の租税教育関係の取り組み

- 4 / 19 ～ 23 税に関するアンケート(R6.4.17作成) 記入
- ① 5 / 21 租税教室 by 税理士<入来中推進校 50種の税 何に使われているか 外国の税>
租税講話 by 松永卓己税理士→生徒はロイロで回答(わがとも 振り返り)
- 5 / 23 人権教室 by 多様性トレーナー ちょこ税トーク;高崎さん学生時の租税教室:「校内ほぼ人権教室 by 高崎恵多様性トレーナー→生徒はロイロで回答(感想) 全てのものが税金から」
- 5 / 24 JRC入会式講話 by JRC賛助奉仕団 “赤十字は寄付募金で成立=税金は入っていない”
JRC入会式講話 by JRC賛助奉仕団・針原正弘氏→ロイロで回答(「JRCとは?」+感想)
- 6 / 26 生徒集会「ニートは国民の3大義務に違反している?あなたの意見を理由付で!」
3大義務講話→生徒はロイロで回答(TEXTの講話内容を参照して自分の意見を書いて送る)
“ニートは勤労の義務や納税の義務に違反している”という生徒の意見が多かった。
- ② 7 / 3 ボランティア事前学習の社会福祉協議会(民間福祉団体)の方の講話 ちょこ税トーク
社協(薩摩川内市から補助金(税金)を受けて公共的な事業も含まれるが、会費や寄附が活動源)
- 7 / 19 1学期終業式「戦争と税金」について→戦時は税率も上がり、新しい税も追加された
平和講話→生徒はロイロで回答(TEXTで講話内容を再提示して内容理解〇×クイズ8問)
- ③ 夏休み 税作品挑戦(作文:有村 里平 森園 末永 森園さんたち 書道:有村 西 福元 末永さんたち)
- ④ 9 / 3 数学科:授業始まりの音声計算機に消費税の8%と10%にちなんだ問いを導入
9 / 10 全校朝会「夏の地域行事振り返りと身近な橋・道路・川に税金投入」
郷土教育講話→生徒はロイロで回答(TEXTでヒントを提示して内容理解クイズ3問)
- ⑤ 9 / 17 英語科:アルファベットジングル租税バージョン1回目
音読み練習→phonics「A」→生徒はロイロで回答(accommodationの意味とアクセントの位置)
- 10 / 21 英語科:アルファベットジングル租税バージョン2回目
音読み練習→phonics「C」→生徒はロイロで回答(consumptionの意味とアクセントの位置)
- ⑥ 11 / 13 財政教室(財務大臣になったつもりで日本国の予算をシミュレーション体験)
シミュレーション専用端末を使って、グループごとに国の予算を作って、発表 by 九州財務局
- 12 / 10 税作文の発表とその内容理解
受賞(川薩地区納税貯蓄組合連合会優秀賞)生徒発表→生徒はロイロで回答(内容理解クイズ)

※この他に社会科で10月21日・12月10日に3年租税授業、12月18日に税に関するいろはカルタ作り

<租税教育の取組を紹介した学校だより>

(4) 全校朝会講話や行事の中でのチョコ税トークによる啓発

本校が租税教育推進校である意識を生徒たちに強くもたせるために、全校朝会での校長講話に税に関連したテーマを取り入れるようにした。また、外部から講師招聘する行事において、「チョコ税トーク」と称する税に関する話を盛り込んでもらうよう講師に依頼した。このような取組を通して、生徒たちに年間を通して税への関心をもち続けるよう働きかけた。

ア 全校朝会講話での実践

(すべて講話後に、生徒はタブレットのロイロノートを使って振り返りを送信)

(ア) 「ニートは国民の3大義務に違反している？」の問いに自分の意見を述べる。

(イ) 「戦争と税金」を平和講話のテーマとして設定し、生徒は内容理解〇×クイズに答える。

(ウ) 郷土教育講話の中で、税金の使われ方についての例を示し、生徒は内容理解クイズに答える。

イ 行事の中での「チョコ税トーク」

(ア) 人権教室講師の高崎恵氏(多様性トレーナー)：租税教室の中で学校内のほぼすべてのものが税金でまかなわれていると教えられた。

(イ) JRC入会式講師の針原正弘氏(JRC賛助奉仕団員)：赤十字の活動はすべて、赤十字への寄付や募金で成り立っているため、税金は使われていない。

(ウ) ボランティア学習講師の社会福祉協議会の土本祐一郎氏：社会福祉協議会は会費や寄附を活動源にしている民間福祉団体である。しかし、薩摩川内市から税金を基にした補助金を受け取り、公共的な事業を請け負う一面もあるので、税金と関わりはある。

ウ 上記の具体例(アのイ)

「戦争と税金」

No.1

毎年、夏休み前に平和に関するお話しています。みんな勉強済みですが、1945年8月6日には広島に、8月9日には長崎に原子爆弾が落とされ、直接的に約21万の人が命を落としました。その少し後に日本は無条件降伏し、戦争での負けが決定しました。8月15日が終戦記念日となっており、テレビ等でも8月は過去の過ちを振り返り、平和について改めて考えるような番組も多いので、平和学習の絶好の機会なのです。先の戦争、第二次世界大戦の中でも、1941年から日本が、アメリカを主とする連合軍と戦った戦争のことを太平洋戦争といいます。

No.2

そもそも、戦争とは、国などが自衛や利益の確保を目的に、武力を行使し、戦闘を起こすことをいいます。戦争が始まると、戦うための武力を使ったり、備えたりするために多額の費用がかかります。1941年からの太平洋戦争の日本も同じで、急増する戦費のもとにあてるため、国は借金をした上に、まだまだ、お金が足りず、国民から「税金」を通してお金を集めるしかなかったのです。なので、毎年、増税につぐ増税を行いました。まずは酒税・遊興飲食税・物品税・清涼飲料税・砂糖消費税・通行税・入場税などの間接税を引き上げました。1942年には所得税・法人税などの直接税を中心に引き上げたり、電気ガス税・広告税・馬券税の3つの新税をつくりました。

No.3

1943年からは、特に酒税・清涼飲料税はぜいたく品として、これまでの倍の税金がかかるようになり(=お酒やジュースの価格が上がる)、他の間接税も上げられ、増税となりました。さらに特別行為税という新税がつくられ、写真撮影、整髪美容(=パーマ代・散髪代にも税金が含まれ、値上がりしました)、染色仕立、印刷製本の行為にも税金がかかるようになりました。1944年には、これまで書いてきた税のすべてが引き上げられました。このように、戦争が続く中で、戦争を第一に考える世の中の雰囲気になり、物資は戦争に費やされ、生活は苦しいのに税金は高くなる一方。でも、国のために「欲しがりません、勝つまでは」「ぜいたくは敵だ」の戦時中の国策標語のもとに日本国民は我慢を強いられました。やがて、戦況悪化にともない、戦場での兵隊さんたちの戦死者増加だけでなく、日本本土でも空襲などで庶民にも直接的な被害が加わってくるようになります。

内容理解〇×クイズ

この水色テキストをコピーし、()に〇×を記入して提出箱に入れましょう<黄色テキストNo.1からNo.3を読めばわかるはず>。

- ① 太平洋戦争は1941年に始まった。()
- ② 税率を引き上げると増税という。()
- ③ 所得税・法人税は間接税である。()
- ④ 相統税は1943年に新税としてつくられた。()
- ⑤ 長崎原爆投下の日は8月6日である。()
- ⑥ 原爆投下の直接的影響による死者は3万人である。()
- ⑦ 終戦記念日は8月15日である。()
- ⑧ 太平洋戦争が終わったのは1945年である。()

5 税に関するアンケートの実施

令和6年4月と令和6年12月に全校生徒を対象に合計2回アンケートを行った。アンケートの内容と結果を以下に示す。

(1) あなたは税について家庭で話をしますか？

	よくする	たまにする	あまりしない	全くしない	回答 総数
1回目(令和6年4月)	2%	18%	42%	37%	99
2回目(令和6年12月)	▲1%	▲16%	▲37%	46%	

【考察】

学校だよりや学級通信で租税教育に関する学習を開催したことを家庭にも周知は行ったが、家庭での話題にするような呼びかけや保護者を巻き込む工夫が不足していた。そのため、1回目よりも、租税教育実施後の2回目において、家庭で税を話題にする生徒数が減った。

(2) あなたは税について興味・関心がありますか？

	大いにある	少しある	あまりない	全くない
1回目(令和6年4月)	4%	21%	55%	20%
2回目(令和6年12月)	▲2%	26%	▲46%	25%

(3) あなたは税について知りたいと思いますか？

	大いにある	少しある	あまりない	全くない
1回目(令和6年4月)	5%	33%	41%	21%
2回目(令和6年12月)	▲4%	34%	43%	▲18%

【考察】

(2)のアンケート結果から、生徒の税への興味・関心が全体的にやや下がってしまったことが分かった。(3)のアンケート結果からは、税について知りたいと思うこと、つまりニュースに注目したり、学校で学んだ知識を活用して、さらに税についてくわしく調べたりしようとする生徒の割合もあまり変化がなかったことが分かった。生徒の多くが、「税は難しいもの」「大人にならないと実感できないもの」などのイメージをもっていることが原因であると考えられる。

(4) あなたは税を納めることについてどう思いますか？

	絶対 必要である	必要である	払いたく ない	どちらでも ない
1回目(令和6年4月)	17%	46%	15%	21%
2回目(令和6年12月)	24%	48%	▲9%	▲18%

(5) あなたは税の使い方について興味がありますか？

	大いにある	少しある	あまりない	全くない
1回目(令和6年4月)	9%	28%	43%	20%
2回目(令和6年12月)	6%	38%	▲39%	▲17%

【考察】

租税教育の取組を通して、納税の義務について理解度が高まり、その必要性を自覚した生徒は、63%から72%まで上昇した。税の役割や重要性、納税の意義を認識し、将来あるいは現在の大人が納める必要があるものと実感している生徒が増加したことが分かる。しかも、

財政について学んだことで、税の使い道への興味も高められたようである。今後、引き続き実践を継続し、租税全般への興味・関心をさらに高めていく必要がある。

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

- 税に関するアンケートを、これまでの研究委嘱校のものを参考に作成し、他校の生徒の実態と本校生徒の実態を比較しながら、研究を進めることができた。また、来校者にも同様のアンケートを実施することで、大人と生徒の意識の違いを把握したり、「ちょこ税トーク」の問いから研究推進のヒントを得たりすることができた。（次頁「税に関するアンケート用紙」参照）
- 租税教育に関する様々な取組を通して、税の種類やその使い道などの知識が増え、その意義や役割、必要性を正しく理解できる生徒が増えた。
- 租税・財政教室でペア・グループ活動を設定したことにより、税について理解が進みにくい生徒も、対話的な学びを通して理解を深めることができ、租税の仕組みについて意欲的に学ぶことができた。
- 税に関する作文や書道への取組を通して、生徒が身近に存在する税を題材として、今後の租税や社会のあり方を考えることができた。また、根気強くよりよい作品を作り上げようとする姿勢を育むことができた。
- 社会科以外での税に関する取組、学校だよりや学級だよりでの啓発活動、外部講師招聘の機会等を通じて、生徒だけではなく、教職員の税の仕組みへの理解の深まりや、校外連携の在り方等に関する意識の向上につながった。

2 今後の課題

- 租税・財政教室中心でなく、各教科、「ふるさと・コミュニケーション科」を中心に、租税に関する興味・関心を高め、租税の仕組みについて学ぶ学習活動を再考・改善し、広く主権者教育にもつなげるようにしたい。例えば、生徒の日常生活の中で、公共物や自分の持ち物を大切にしようとする態度を養うことなどができるようにしたい。
- 身近な事象・事例を取り上げて教材化する工夫を行うことで、税についての興味・関心をさらに高めていきたい。
- 本市の小中一貫教育を生かしながら、長期的・系統的な視点に立ち、より小・中のつながりを意識し、租税教育の効果が高まる教育課程の編成が求められる。
- 各教科、道徳や「ふるさと・コミュニケーション科」の時間での取組の枠に限らず、特別活動等を含む全教育活動の中で体系的で継続的な指導計画をさらに充実させたい。
- 今回の租税教育に関する取組を基に、「みんなで何かをするのは楽しい」や「授業に主体的に取り組んでいる」、「授業がよくわかる」と感じる生徒の割合を増やし、すべての生徒が「学校が楽しい」と感じるができるよう、魅力ある学校づくりに関わる学校環境を整備・充実させていきたい。

V 終わりに

2年間にわたり、租税教育研究委嘱校として、「継続的かつ全校体制で取り組む租税教育をとおして、租税に対する興味・関心を高め、租税の意義や仕組みについての理解を深め、社会を支える一人としての自覚をもたせるとともに、社会に貢献しようとする意欲や態度を育成する。」を主題として、研究実践に取り組んできた。

租税教育の全体計画や一つ一つの授業の展開については、各教科、道徳や「ふるさと・コミュニケーション科」の授業、その他の啓発活動など、教職員が各担当分野においてアイデアを出し合い、租税教育推進係と協力しながら取り組むことができた。川内税務署、鹿児島財務事務所、南日本税理士会の方々には、工夫を凝らし、大変分かりやすい租税教室を開催していただき、生徒たちは意欲的に学習を進めていくことができた。本校の職員も生徒同様に租税について深く学ぶ機会となり、大変貴重な経験をさせていただいた。前述したとおり課題は少なからずあるが、これからも様々な取組を本校の教育活動の中で実践できると考えるので、今後も継続して租税教育に取り組んでいきたい。

生徒には、税について一層の興味・関心をもち、これからも学びを深めてほしい。そして、社会の構成員として、自由・権利と責任・義務との関係を適切に認識し、他者との信頼を深め合いながら、社会生活に貢献し、主権者として活躍して行ってほしいと考える。

最後に、鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、今回の研究・実践にあたって、御指導と御協力をいただいた川内税務署及び関係機関の皆様方に心から感謝申し上げたい。

税に関するアンケート (R5.3.5 作成：入来中学校)

子どもたちの税への興味関心を刺激するための情報収集です。お気軽にご回答ください。

※本校は、R6・7年度 租税教育推進の研究委嘱校となっております。

1 ご所属名 (市・町・村)

2 ご記載者 (担当者) 職名等 () 氏名 ()

3 あなたが税金という言葉から、すぐに思い浮かぶものは何ですか？ (複数回答可)

4 あなたは、税について興味・関心がありますか？ (その状況を下記ア～エから1つ選択)
ア. 大いにある イ. 少しある ウ. あまりない エ. 全くない

5 あなたは、税について知りたいと思いますか？ (その状況を下記ア～エから1つ選択)
ア. 大いにある イ. 少しある ウ. あまりない エ. 全くない

6 あなたは、税を納めることについてどう思いますか？ (その状況を下記ア～エから1つ選択)
ア. 絶対必要である イ. 必要である ウ. 払いたくない エ. どちらともいえない

7 6の理由をおしえてください。(自由記述)

8 あなたは、税の使い方について興味がありますか？ (その状況を下記ア～エから1つ選択)
ア. 大いにある イ. 少しある ウ. あまりない エ. 全くない

9 あなたが持っている、税金へのイメージをふくらませて、可能な範囲で子どもたち向けに、税について語ってください。「ちょこっと税トーク」してください。(自由記述)

メール：tough1487@yahoo.co.jp (石畑個人メールアドレス)
FAX：0996-44-2232 (入来中学校)
連絡先：薩摩川内市立入来中学校 0996442070 担当 (石畑)

＜税に関するアンケート用紙＞

税に関するアンケート (R6. 4. 17 作成：入来中学校)

- 0 ご記入日 () 年 () 月 () 日
- 1 ご記載者(担当者) 学年など () 氏名 ()
- 2 あなたは税について家庭(おうち)で話をしますか?(その状況を下記ア～エから1つ選択)
ア. よくする イ. たまにする ウ. あまりしない エ. 全くしない
- 3 あなたが税金という言葉から、すぐに思い浮かぶものは何ですか?(複数回答可)
- 4 あなたは、税について興味・関心がありますか?(その状況を下記ア～エから1つ選択)
ア. 大いにある イ. 少しある ウ. あまりない エ. 全くない
- 5 あなたは、税について知りたいと思いますか?(その状況を下記ア～エから1つ選択)
ア. 大いにある イ. 少しある ウ. あまりない エ. 全くない
- 6 あなたは、税を納めることについてどう思いますか?(その状況を下記ア～エから1つ選択)
ア. 絶対必要である イ. 必要である ウ. 払いたくない エ. どちらともいえない
- 7 6の理由をおしえてください。(自由記述)
- 8 あなたは、税の使い方について興味がありますか?(その状況を下記ア～エから1つ選択)
ア. 大いにある イ. 少しある ウ. あまりない エ. 全くない
- 9 あなたが持っている、税金へのイメージをふくらませて、可能な範囲で小学校の子どもたち(小学5・6年生)向けに、税について語ってください。「ちょっと税トーク」してください。(自由記述)
- 10 あなたは、税に関する作品(標語・ポスター・習字・作文・歴史新聞)にチャレンジしたい気持ちがありますか?
ア. 大いにある イ. 少しある ウ. あまりない エ. 全くない

<税に関するアンケート用紙>